

## 産業振興について

## 代表質問 「新公会」中河 哲郎

**質問** 企業立地推進室が設置されて2年になるが、これまでの活動と成果は。坂出の顔である市長のトップセールスに大いに期待するとともに、今後の取り組みについて伺う。

また、国土交通省は、港湾整備における投資の重点化を進めるため、全国の特定重要港湾を除く103の重要港湾の中から40港湾を選定し、新規の直轄港湾整備事業の着手対象を原則これに限るとしている。

施政方針でも市長は強い決意を述べているが、坂出港の重点港湾への選定について、市長の考えと今後の取り組みを伺う。

**答弁**…市長

坂出港については、本年2月に、坂出港運協会、全日本港湾労働組合四国地方香川県支部、坂出地方労働組合連盟より、重点港湾に向けた働きかけの陳情があり、坂出商工会議所からは陳情に対する賛同同意書が寄せられるなど、多方面から坂出港の重点港湾への選定に強い期待が寄せられているところです。

坂出港の発展には、重点港湾に選定されることが欠かせぬものであると認識しており、近々の取り組みとして、坂出港振興協会の会長である私が、政府・与党に対し、坂出港の地域拠点性と、四国の産業インフラとして重要な存在であることを、強く示す要望活動を予定しています。

**答弁**…副市長

これまでの企業立地の件数等については、県外の流通企業1社が立地し、市内企業も2工場を新設しました。その他、番の州地区を中心に大規模な設備投資も行われています。新たに坂出發電所2号機リプレイス計画が発表されたほか、今後、新たな工場の建設が数件予定されており、企業立地促進助成金の利用についても、相談を受けているところです。

厳しい経済環境の中ではありますが、今後とも、地元企業との直接対話を実施するとともに、本市の企業立地条件の優位性や生活環境の豊かさを前面に打ち出してPRするなど、提案型の企業誘致を進めてまいります。さらに、「企業は顧客である」という意識に基づき、トップセールスを初め、県や商工会議所などの関係機関と連携しながら、より多くの雇用を創出し、地域経済の活性化に繋げていきたいと考えています。

## 市立病院について

**質問** 市立病院は、平成17年度以降、一般会計からの繰入金なしで黒字を続け、全国の自治体病院でも極めてまれな経営成果を維持している。管理者である市長は、これまでの市立病院の経営をどのように評価しているのか。

また、市立病院の基本構想・基本計画(素案)では、脳神経外科を新設し、産科の再開を目指し、医師職についても増員を計画している。

新たな診療科目の必要性について、さらに、計画する医師数の確保について、市の見解を伺う。

**答弁**…市長

市立病院は、平成3年度末には約24億8千万円の累積欠損金、約25億3千万円の不良債務を抱えるという状況のもと、病院事業経営健全化計画を策定し、病院医療従事者の意識改革を遂行しました。

市民や議会の理解を得て、一般会計から赤字解消のための繰出金が支出され、平成10年度に不良債務が解消し、平成19年度には累積欠損金が解消されたところであり、その経営の効率化と健全化の手法が、広く知られるようになりました。

このような状況の中、平成21年度には自治体立優良病院として表彰されるなど、全国的に有名な病院の1つとなっており、また、全国の自治体病院関係者からも、現在の市立病院にはすばらしい人材が集まっているとの評価をいただいております。私も高く評価しているところです。

**答弁**…市立病院長

坂出市立病院のあり方有識者会議から示された基本構想・基本計画(素案)では、脳神経外科を新設し、産科の再開を目指すとしています。

これは、脳血管疾患は市外流出率が高く、市民のニーズでもあり、高齢化の進展に伴い、さらに脳血管疾患の増加が予測されることから、脳神経外科を新設することが必要であり、また、妊娠、分娩及び産じよくの市外流出率が50%前後と高いことから、産科の再開が必要であるという方向性が打ち出されたものです。

医師の確保については、これまで市長ともども、香川大学医学部に医師派遣を強く要望してきました。

今後、本市が策定する基本構想・基本計画を踏まえ、これまで以上に積極的に要望していきたいと考えています。